

19) 先天性心疾患手術におけるテクノグラフトの使用経験

吉井	新平	橋本	良一	
三宅	知雄	・小島	淳夫	
加藤	淳也	・鈴木	修	
保坂	茂	・松川	哲之助	(山梨医科大学)
多田	祐輔			(第二外科)

E-PTFE 製のテクノグラフトは本邦で開発された曲げに強い特徴を持つ人工血管である。その特徴を生かすべく、先天性心疾患3例に応用し、よい結果を得たので報告する。

症例1：1才11カ月男児，SV+PA，TGA で両側 B-T Shunt 術施行後も肺血流足りず，Central A-P Shunt に 6mm 径を使用した。柔らかな肺動脈にも直接縫合でき，短い距離での曲がりにも良好であった。症例2：1才3カ月女児，Asplenia，TGA，PA，TAPVR (IV) 他の複雑心奇形，B-T shunt 後で PVO による PH 例で左右2回の開胸にて一本ずつ個々に肺静脈環流を正常化した。1b タイプの右上肺静脈は距離が足りず心房との吻合に 7mm 径を使用し，良好。症例3：17日女児，Ebstein's 奇形，Starnes らの体外循環下に三尖弁閉鎖と 4mm の本グラフトによる A-P shunt 術施行。グラフトも良好に機能したが，第6病日突然死。

本グラフトは曲げに強い特徴から短距離で角度の付くシャントや静脈の代用にも使用できる有用な人工血管の一つと思われた。

20) 血液カルジオプレギアの使用経験

小熊	文昭	菅原	正明	
広岡	茂樹	・三浦	正通	
右田	敏郎	・春谷	重孝	(立川総合病院)
入沢	敬夫	・坂下	勲	(心臓血管外科)

血液カルジオプレギアの有効性については，これまでに多数報告されているが，特別な装置が必要であること，無血視野がえがたいという危惧などから，一般的にはあまり普及していない。当院では，1992年7月から成人の開心術で血液カルジオプレギアを使用しており，その臨床成績について検討し報告する。

CABG 手術症例でそれ以前に用いていた GIK 液と比較すると，術中の水分負荷は有意に少なく，術後の血行動態が安定していて，カテコラミンの使用濃度の低い症例が多かった。しかし，PMI の発生率には差がなく，非 PMI 症例における術後の MB-CPK 値にも有意差を認めなかった。

21) 肺挫傷の治療に関する検討

富樫	賢一	・矢沢	正知	(長岡赤十字病院)
高橋	善樹	・佐藤	良智	(胸部心臓血管外科)

【対象】1988年より1992年までにICU管理を要した肺挫傷患者40人。【原因】交通事故32人，転落・転倒8人。【合併症】肺裂傷(血気胸)36人，肋骨骨折29人。【治療】床上安静のみ5人，酸素投与35人，呼吸器使用者18人，胸腔持続ドレナージ施行30人，手術施行者4人(肺裂傷修復2人，右肺全摘術1人，心嚢ドレナージ1人)。【予後】死亡3人(手術死亡1人)，軽快退院18人，他科転科18人，転院1人。【考察・結語】肺挫傷は，特別な治療を要しない軽度のものから，緊急手術を要する重症のものまでであるため，受傷早期に於ける，重症度の判定と，それに応じた速やかな処置が最も肝要であると思われた。

22) 胸腔鏡手術の適応拡大

一気胸から縦隔腫瘍，肺葉切除へ

斎藤	憲	・八木	伸夫	(秋田赤十字病院)
三浦	宏二	・高野	征雄	(同 外科)

当院ではすでに11例の自然気胸に対し胸腔鏡下手術を施行しているが，今回さらに縦隔腫瘍と T1N0 末梢型肺癌の肺葉切除+縦隔リンパ節郭清に胸腔鏡下手術を行い良好な結果を得た。症例1は43歳の男性。右肺尖部の縦隔腫瘍で神経原性腫瘍を疑われ当科へ紹介された。全身麻酔下分離肺換気にて右胸腔鏡で見ながら縦隔胸膜を切開し，鋭的及び鈍的に腫瘍を剝離し，en bloc に切除できた。Tumor は径 4cm で境界は明瞭で良性と思われた。組織は Schwannoma であった。症例2は64歳の女性で検診によって発見された右肺の S8 の Tumor で気管支鏡下擦過細胞診では Class IIIa であった。症例1と同様に右胸腔鏡を挿入し，穿刺細胞診で Class V，adenocarcinoma と診断され，5cm の Mini-thoracotomy を行なった後，Video-assisted lower lobectomy+MLD (R2a) を行なった。2例とも術後経過は極めて順調であり，創痛もほとんどなかった。